

福島日仏協会「シードルを楽しむ新年会」を開催しました



挨拶する太田英晴理事長



五十嵐章浩オーナーの「シードル」紹介に聞き入る参加者

何かテーマを掲げて開催したく、新年会会場は昨年同様 Tea & Bar MAGIE NOIR(マジー・ノアール)で 26 名の出席があり開催しました。

開会挨拶では太田英晴理事長より「3 日前に渡仏から帰国したばかりで、現地の著名ソムリエ 6 名と、日本の蔵元 6 名が各々ワインと日本酒を持参して味わう品評会があり来場者も試飲する楽しい企画があり、現地のマスコミに取り上げられて話題となりました。徐々に日本酒の消費量がフランスで増えており又、評価されて業界に良い流れが来ると思っています。」と話された。

当日は新入会員お三方渡邊隆様、善方邦彦様、富田博明様が出席され各々挨拶を頂きました。店主五十嵐章浩氏の歓迎の挨拶では「シードルに合う自信作料理と飲物を楽しみにお待ち下さい。」の説明がありました。講師の上野寛大氏からは専門的なシードル(りんごの発酵酒)とカルヴァアス(りんごの蒸留酒≡ブランデー)のポイントをタイミング良く切り上げて、後ほど料理の都度説明する旨を伝え、出席会員も了承し乾杯に移りました。乾杯の発声は、五阿弥宏安理事にお願いして「新年のシードルを楽しむ宴」開始となりました。

- | | | |
|------------|-----------------------------------|----------|
| 最初のシードル | ：ヴァル・ド・ランス (ブルターニュ産 100%リンゴの甘みある | 度数 2 %) |
| 2 番目のシードル | ：ラシヤス・ナチュラル(ノルマンディー産赤リンゴ果汁凝縮 | 度数 3 %) |
| 3 番目のシードル | ：ラシヤカルヴァアス (シードルにカルヴァアスをブレンド | 度数 7.5%) |
| 4 番目カルヴァアス | (ノルマンディー限定リンゴの蒸留酒 樽熟成 12 年風味深い贅沢感 | 度数 40%) |

次々とグラスに注がれる酒を味わいながら、日本のサイダーのイメージと違う風味、最後はピリリと喉に入りました。飲み足りない方々は、ワインも注文されて珍しい料理もはかどりしました。

料理では、玉ネギとアパレイユ(卵、バター、小麦粉)のタルト ⇒ 魚料理コトリヤード ⇒ 牛の胃袋をシードルで煮込んだ「仏郷土料理トリップ」を味わい楽しみました。特に 4 番目のカルヴァアスを少し口に含んでの度数の高い(いわゆるブランデー)酒は独特で、初めての方もおり、女性会員 6 名の方々もじっくりと味わっていました。

名残惜しい処で、中締めとなり横山淳理事が「通常のイメージ(スパークリングと比較し)とは違う本場のシードルを実感出来ました。」と話され一本締めで散会となりました。

尚、会費の一部を能登地震災害義援金として、会場の五十嵐章浩氏からも協賛いただき復興への気持ちを託しました。

2024 年度春季 実用フランス語技能検定試験

公益財団法人フランス語教育振興協会

■実施級 1 級、2 級、準 2 級、3 級、4 級、5 級

■実施日程 1 次試験 (1・2・準 2・3・4・5 級)

2024 年 6 月 16 日 (日)

2 次試験 (1 級・2 級・準 2 級の 1 次合格者対象)

2024 年 7 月 21 日 (日)

■受付期間 願書郵送によるお申込：4 月 1 日(月)~5 月 15 日(水)※消印有効

インターネットでのお申込：4 月 1 日(月)~5 月 22 日(水)

■福島会場 福島学院大学 福島駅前キャンパス



運命の出会い

人には誰しも、かけがえのない出会いがあるに違いない。私にとって、歌手瀬間千恵さんこそ、運命の人、運命の出会いだった。

瀬間さんは、桐朋学園音大の声楽科でフランス歌曲を専攻、クラシックの基礎を学んだ後、シャンソンの世界に入った。4オクターブという圧倒的な音域の広さと確かな歌唱に加え、女優を思わせる美しさとオーラから「天使型魔女」と評され、多くのファンを魅了していく。故寺山修司さん率いる天井桟敷の舞台にも客演で招かれている。

私が出会ったのは、大学生の時だから四十年以上も遡る。今はなき、銀巴里だ。当時は、金子由香利さん、美輪明宏さんの全盛期でもあった。瀬間さんはほぼ月に一回出演し、もちろん舞台を締めくくるトリの役割を担っていた。語りを効かせた金子さん流のシャンソンが一世を風靡し、追隨する歌手手が跋扈していたころ、瀬間さんは独自の境地に達していた。



瀬間千恵さんレコードアルバム

バラード調のシャンソンからリズム感あるクルト・ワイル作品まで自在にこなした。迫力ある低音、澄み切った高音、どの音域も美声だった。女優でもあったから、ステージの所作も別格。スポットライトが当たったその瞬間から大スター、そこは美輪さんに通じる。例えば、得意とする「白い服」。精神病院を舞台にしたヒロインを扱ったエディット・ピアフの持ち歌だが、その狂気じみた内容がゆえに、ピアフ自身も生前数度しか歌わなかったという。

それから四十年余。新聞記者時代は学芸の記事を数多く書いた。今は、日本シャンソン・カンツォーネ振興協会の副理事長として、生意気にもコンクールの審査をし、シャンソン、カンツォーネの普及をライフワークと自認している。心の核には、常に瀬間さんがあった。彼女との出会い、同時代に生きていることの喜びがあればこそ、今日までの道が続いたことを疑わない。

東日本大震災から一年後のことだ。2012年春、福島のライブハウスで歌ってくださった。発災以降、現役の記

者だった私はたびたび激励の電話をいただいた。写真で御覧の通り、大変な愛犬家だったから、被災地の馬や動物たちの行く末も心にかけていた。

「福島の人たちに、歌で勇気を与えてくれませんか」。おそろおそろ相談した。そこは江戸っ子、即決だった。入場無料の趣旨にも賛同し、ノーギャラ、記憶が正しければ、交通費も受け取らなかった。数々のシャンソンの後、カッシーニの「アベ・マリア」で結んだ。瀬間さんにとっては、命を落とされた福島の人たちに鎮魂を捧げる一夜だったのかもしれない。

2017年、都内青山の草月ホールで開いたリサイタルも忘れられない。八十歳を過ぎての舞台である。お助けのゲストも呼ばず、一人で完投する生粋のリサイタルだ。ソールド・アウトは当然で、後塵のプロも多数駆け付け、固唾をのんで聴き入った。

実は開催直前、1980年ごろに録音された銀巴里でのライブ盤「●幸せな愛などない」が復刻、販売された。金子さんや美輪さん、村上進さんによる同種の音源と並ぶ、音楽史に残る名盤だ。そこで、瀬間さんにリサイタル会場で販売しては、と提案したところ、えらく叱責された。「今の私でいい。(あの音源は)今の私ではない」という理由だった。過去を振り返らない、プロの矜持に感服する他なかった。

2023年夏、二十四年ぶりに新作CD「夢のあとに」を発売した。ライナーノーツを紹介する。「つらい時も哀しい時も私と一緒に歩いてくれた歌たちと、それをいつも変わらず受け止めて聴いてくださったあなたへの感謝がこのようなCDになりました」

全十八曲、まさに全身全霊を傾けた歌唱だった。おしゃれで野暮なことが大嫌いのアーティストが、こころのたけを惜しげもなくストレートに表している。それが今現在の、偽りのない姿なのだろう。八十七歳で新作を発表



する。私なんぞはまだまだ、小僧にすぎない。運命の出会いに感謝し、その不思議をあらためてかみしめている。

[自由人第38号原稿を一部修正しました。]

荒木英幸(会員 民報印刷社長)
(日本シャンソン・カンツォーネ振興協会副理事長)

「ヨーロッパ滞在時の思い出」

ヨーロッパの冬は、雨や雪、雲の多いどんよりした日が多く、だれもが、春の訪れを首を長くして待っています。冬の間、オランダでは、暖房をきかせた温かい部屋で、蝋燭を灯し、編み物や読書を楽しんだり、温かいホットチョコレートやコーヒー片手に友人たちとコーヒータイムを楽しんだり、ホットワイン片手に一品持ちよりのホームパーティーを開いて静かに過ごします。時間がゆっくりと流れていき、思い思いに家の中で好きなことをして過ごす、なんとも贅沢な時間の過ごし方で、ヨーロッパの人たちは、冬を楽しみます。



オランダ国立美術館

クリスマスやイースター前には、スイスでは、学校や教会主催のスキー合宿が数多く企画され、多くの子ども達はスキーキャンプに参加します。私もスキーキャンプに参加しましたが、日本とは違って、スイスのスキーキャンプはスパルタで、まったく滑れなくてもすぐにリフトに乗せられ、「滑りましょう！転んでいるうちに覚えるでしょう」みたいな感じで滑らされました。スパルタスキー合宿のおかげで、自己流ですが、すぐにスキーは上手になり、今でもスキーは大好きなスポーツの一つになっています。時間がなくて、いけないのが残念ですが…（笑）

長い冬を過ごすと、太陽が恋しくて、私が住んでいたころは、スイスでもオランダでも、少しでも太陽が見えるとみんなベランダや庭で日焼けを楽しんでいました。また、当時は夏になると、スイスやオランダ、ドイツの人たちは太陽を求めて、青空が広がる暖かい南フランスやスペイン、イタリアなどにヴァカンスに訪れ、日焼けがステータスの一部になっていました。一部のオランダ

人は、植民地だったインドネシアやあたたかいマレーシアなどに別荘を持ち、一年の半分を過ごしていた方もいたほどです。

ヨーロッパの春は、チューリップや水仙など美しい花であふれ、街なかでも男性も女性も花束片手に歩いている人たちを多く見かけます。日本でお饅頭を持参してお友達の家を訪れるように、オランダでは、花束をもってお友達の家を訪ねます。ですから、家の中には、たくさんの素敵なお花が飾られています。スーパーなどでも気軽に花が買えるのはいいことです。

皆さんもご存じの通り、オランダのキューケンコフ公園は、春になるとチューリップや水仙、ヒヤシンスなど様々なお花が咲きとても綺麗です。公園の周辺も球根を出荷するための美しい花畑が何キロも続いて、それはそれは、きれいです。皆様も機会があれば、是非キューケンコフ公園を訪れることをお勧めいたします。日本では、バレンタインデーに女性が男性にチョコレートを贈りますが、ヨーロッパでは、お花を男性が女性に、子ども達は両親にカードやお花を贈ります。



花は、人の心を温かくします。日本の春ももうすぐそこまで来ています。福島の春も桜やリンゴ、梨や桃など他にはない美しい風景を楽しむことができます。今年も、花であふれる福島を楽しむために、皆様もどこかお出かけしてみませんか？

佐藤美奈子

フランス料理を楽しむ会 受講生募集しております！

月曜コース・水曜コース 2024 年度前期各 4 回日程 （後期も 4 回の予定です）

会場：福島 MAX アオウゼ 4 階「調理実習室」

時間：10：00～13：00

定員：各コース 12 名以内となりました。

食材・受講料：前期 10,000 円（4 回分）、後期 10,000 円（4 回分）

講師の下ごしらえしたソース、材料で美味しい料理を楽しめます。お気軽にお試し参加して下さい。（1回 2,500 円）

コース	開催月日	講師
月曜コース	第 1 回：5 月 13 日 第 2 回：6 月 10 日	第 1 回、2 回、4 回：渡邊昭徳（アルソーニ オーナーシェフ） 第 3 回：相良栄二（大玉ベース パティシエ）
	第 3 回：7 月 8 日 第 4 回：9 月 9 日	
水曜コース	第 1 回：5 月 15 日 第 2 回：6 月 12 日	第 1 回、2 回、3 回、4 回 菅野 喜代治（県立美術館カナル前オーナーシェフ）
	第 3 回：7 月 10 日 第 4 回：9 月 11 日	

「チャイコフスキーとルービンシュタイン」



『くるみ割り人形』『白鳥の湖』『眠りの森の美女』などのバレエ音楽や、《ヴァイオリン協奏曲》、《ピアノ協奏曲第1番》などで知られるチャイコフスキーは、生涯で1曲だけピアノ三重奏曲を残しました。演奏時間は40～50分という大作で、

協奏曲が完成したのです。

チャイコフスキーは音楽院卒業後すぐに、ルービンシュタインの誘いによってモスクワ音楽院で教鞭を取っており、ルービンシュタインは音楽家としてまだ歩み始めたばかりのチャイコフスキーのために様々な援助をしました。

そして、チャイコフスキーは深い交友のあったルービンシュタインの一周忌の際に作曲したのが「偉大な芸術家の思い出に」というピアノ三重奏曲です。この作品は、漂うようなピアノの流れにのせてチェロのメロディーから始まり、最後もチェロが旋律を奏でます。協奏曲的な要素がありながらも、室内楽としての醍醐味である3つの楽器が細かく重なって生まれる音色の変化やアンサンブルの愉しみを味わえる作品です。

「偉大な芸術家の思い出に」という副題が付けられています。「偉大な芸術家」とは、チャイコフスキーにとって大切な親友であり、モスクワ音楽院の創設者、ピアニストであったニコライ・ルービンシュタインのことです。

チャイコフスキーは当初《ピアノ協奏曲第1番》を、ルービンシュタインをソリストとして彼に献呈するために作曲しました。しかし、ルービンシュタインはこの作品を酷評し、曲の書き直しを迫りました。自尊心を傷つけられたチャイコフスキーは書き直しを拒否し、二人は仲たがいをします。チャイコフスキーはそのまま出版することを決めますが、結局手直しをして当時人気の別のピアニストへ献呈し、その初演は大成功を納めました。そして、その後ルービンシュタインは曲の評価を改め、この作品の普及に大きく貢献し、仲直りをしたというエピソードがあります。改訂部分は、例えば冒頭ピアノが鐘のように重厚に鳴らす和音は、初校ではアルペジオで書かれ、和音を下から一音ずつずらして弾くように指示されていました。一度に全ての音を鳴らすよう改訂されたことで、壮大で力強く華々しい印象を聴衆に与えます。二人の関係性があったからこそ、現在最も有名なピアノ

第16回～響きを紡いで～ “音のまなざし”コンサート

猶井悠樹(Vn) 宮坂拓志(Vc) 富山律子(Pf)
2024年5月25日(土) 14:00 開演
キョウワグループ・福島テルサホール(福島テルサ)
全席自由 一般 3,000円、学生 1,000円

今年は、5月25日に福島テルサで猶井悠樹さん(NHK交響楽団第1ヴァイオリン奏者)、宮坂拓志さん(NHK交響楽団チェロ奏者)と共に、チャイコフスキー作曲ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」を演奏いたします。この機会に会場で、お聴きいただけましたら幸いです。
富山律子(会員)

フランス語会話教室



マルシェンヌ・アンソフィ講師

仏北部アラス市生まれ、同地のアルトワ大学・大学院でフランス語教育の修士号取得。
2024年3月来日

教える上で私が最もワクワクするのは、生徒さんが言語の習得を進めるにつれて自信をつけていくのを見ることです。フランス語への情熱をこのコミュニティと共有し、専門的にも個人的にも成長し、フランス語教育に貢献できることを楽しみにしています。

2024年度授業日程及び時間割

福島県林業会館 1F 会議室

前期：15 cours	
Avril 4月	13 20 27
Mai 5月	11 18 25
Juin 6月	8 15 22
Juillet 7月	13 20 27
Août 8月	31
Sept. 9月	7 28

後期：15 cours	
Oct. 10月	5 19 26
Nov. 11月	9 16 30
Déc. 12月	7 14
Janvier 1月	18 25
Février 2月	1 15 22
Mars 3月	8 15

講座	時間	受講料
初級1	10:00～11:00	78,000円
上級	11:00～12:00	90,000円
初級2	12:00～13:20	78,000円
入門	14:00～15:00	78,000円
中級	15:00～16:20	78,000円
準上級	16:20～17:40	82,000円

年30回 各月授業開催日は土曜日となっております。

※4回分納可 (中、高生 68,000円)

